

●浜の話題

- 今年3月以降、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、各浜で魚価が低迷しています。特に料亭等で需要がある高級魚の魚価安が顕著で、3月末には活魚のヒラメやトラフグ、イセエビ等が軒並み平年の1/3~1/5の価格に落ち込み、魚種によっては値段が付かないものもあるそうです。漁業者からは「国や水産庁で対策を検討して欲しい」という声が挙がっていました。
- 昨年11月から実施している暖海性ワカメ種苗導入試験で長崎県南島原市から導入したワカメが、各地で順調に生育し3月に収穫されました。本試験にご協力いただいた横須賀市安浦、浦賀、長井地区、および三浦市金田地区の漁業者によれば「長崎のワカメは県内系統と比べメカブは小さいが、葉部は肉厚で長さの割に重さがあり、塩蔵ワカメ等に加工した際の歩留まりが良い」との話でした。長崎産ワカメを使った種系生産を始めた漁業者もいて、今後の利用拡大が期待されます。



左：長崎産ワカメ / 右：県内系統のワカメ
長崎産ワカメは短いが肉厚なのが特長

- 3月7日と21日、県水産課と当センターは、長井町漁協所属の宮川さん（房竹丸）を講師として長井漁港周辺で漁業体験研修（第2回、第4回）を実施しました。参加した研修生は、刺網やタコつぼ、養殖ワカメの漁業体験や塩蔵わかめの加工体験を行った後、宮川さんの漁業就業までの体験談や漁業就労の心構え等について話を聞きました。今年3回実施された宮川さんを講師とした研修には、計12名の研修生が参加し、そのうち3名がさっそく漁業就業を目指しているそうです。



漁業体験研修の様子

- 3月17日、県水産課と当センター相模湾試験場は、小田原市漁協所属の鈴木さん親子（藤八丸）を講師として小田原漁港周辺で漁業体験研修（第3回）を開催しました。当日は30代の研修生が刺網の引き揚げや漁獲物の網外し等の作業を体験した後、漁業就業や独立漁家への道のりなどについて質疑が行われました。参加した研修生は、漁業就業についての情報としてとても参考になった、と話していました。
- 3月19日、小田原市漁協青年部会は、小田原市江之浦地先でムラサキウニ養殖事業のためのウニを採捕しました。この事業は昨年から始めたもので、県内で初めて出荷販売まで行い、地元のスーパーや料理店で販売しました。今年は養殖方法を改良し、個体数を昨年よりも増やして、より実用化に向けた試験に取り組んでいきます。今後、3カ月程の間にキャベツ等を餌として育て、6月下旬～7月上旬に出荷・販売する予定です。



養殖用のウニを採捕



ウニ養殖カゴの設置

- 3月23日、三和漁協城ヶ島支所は殻長約3.5cmのアワビ種苗7,000個を潜水により放流しました。これは浜の活力再生プランの取組みとして地元ダイビングセンターや水産技術センターの協力のもと実施したもので、魚からの捕食を避けるためダイバーが種苗を岩礁の隙間などに丁寧に置いていきました。さらに同日には漁協組合員が漁船から約20,000個のアワビ種苗（殻長約5cm）を放流したほか、青い標識を殻に着けたアワビ種苗700個（殻長約3.5cm）も潜水により放流され、地先漁場でのアワビ資源の増大が期待されます。
- 3月23日に藤沢市と藤沢市漁協が開催を予定していた「湘南はまぐりの稚貝放流体験イベント」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となりました。市内在住の親子を対象に毎年実施していたイベントですが、今年用意した稚貝3,000個は、漁業者が鵜沼海岸地先の水深4mの場所に放流しました。



漁業者による湘南はまぐり稚貝の放流

- 3月25日、三和漁協上宮田支所所属の藤平さん（初丸）が、銀色の長い体の全長90cmほどの変わった魚を刺網で漁獲しました。当センター職員が確認したところ、フリソデウオ科のサケガシラ（あるいは近縁のテンガイハタ）という魚であることがわかりました。本種は有名なリュウグウノツカイに近い深海魚で、本県沿岸でも時々漁獲されることがあります。よく「深海魚の出現は地震の前触れ」と言われますが、最近の研究では両者の間に統計的な関係はない、という結果が出ています。



漁獲されたサケガシラ（あるいはテンガイハタ）

- 3月30日 小坪漁協所属の大竹組合長（大竹丸）、座間指導漁業士（ヴェルデ丸）を始めとした漁業者計6名は、当センター企画指導部利用加工担当職員の指導を受け、キャベツを餌としたムラサキウエの養殖試験を開始しました。養殖したウエは、6月に身入りが良くなったら地元量販店で販売するほか、座間指導漁業士が経営するイタリアンレストラン等でも提供する予定だそうです。
- 3月30日、鎌倉漁協は通常総会を開催し、役員改選により新たに木村和俊指導漁業士（和祥丸）が4月以降の新組合長に選任されました。平成20年から12年にわたり組合長を務められた原実指導漁業士（三郎丸）は、漁協の直売事業の振興や鎌倉あかもくのブランド化等、様々な組合の活性化に取り組みされてきました。

●お知らせ

- 4月の人事異動により、新たに県水産技術センター相模湾試験場の中川普及指導員が第5担当区（小田原市～湯河原町）を担当することになりました。その他の担当者については変更ありません。漁業者並びに漁協等、関係者の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。
- 4月8日より、当センターホームページで城ヶ島南西沖ブイの観測データ（水温、流向、流速）の公開を始めました。当センター提供のその他の海況情報と合わせ、出漁、操業の参考にしてください。
[当センターの提供情報]
 - 城ヶ島南西沖ブイ リアルタイム海況データ（水温、流向、流速）
<http://kanagawapref.kansoku-data.net/jyougashimaoki/index.html>
 - 浮き相模 リアルタイム海況データ（水温）
<http://kanagawapref.kansoku-data.net/ukisagami/index.html>
 - 三崎瀬戸 リアルタイム海況データ（水温、塩分、クロロフィル、濁度、潮位）
<http://kanagawapref.kansoku-data.net/>
 - 江之浦ブイ 水温・流向流速データ速報（水温、流向、流速）
<http://www.leafsystem.co.jp/sagami/enoura/hp/day00.html>